

詩画集

まァだだヨ II



やまのうえの むらひと
山上 村人



夕暮れ 「タヌキのひとり」 竹田津 実 著

北海道斜里郡小清水町 家畜診療所 付近

もくじ

幸せの小さな袋

多数決（欠）

始めに心ありき

美容学校一年生

ウソ

秋の野をゆく

二つの世界

桐からの伝言

からす瓜

自分が大勢

私の使命 (mission)

かくれんぼ

2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	8	6
8	6	4	2	0	8	6	4	2	0		



時々少し ○

私もマジシャン

雲の上銀行(Cloud)

私は留守です

幸せ発見

夕焼けラブコール

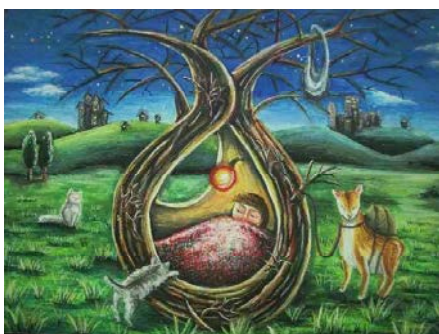
これでいいのだ

酒話日々無題

新聞俳壇・歌壇自選・口上

追補

5	4	4	4	3	3	3	3	3
4	4	2	0	8	6	4	2	0



幸せの小さな袋

幸せの小さな袋

不幸ふしあわせの大きな袋

小さな袋は小さなことで一杯になる

たつた一つのこと一杯になる

「見て！虹がでている。二重橋だよ」

「こんにちは」声がしたのでみたら敷石の間に百合が咲いていた

ある方から久しぶりに電話をもらった 嬉しい

ある方から一枚の葉書を貰った 懐かしい

ある方から細やかなことへのお礼を言われた そんな

ある方から季節の贈りものを貰った ありがとう

ある方から良いお話を聞いた 生きてて良かった



良い音楽を聴いた　　いいなあ

人に伝えたい絵画を見た　　いいなあ

嬉しいことは自然からも来るが良いことの多くは人から来る

暗い夜でも一本の蠟燭に集う笑顔

雪の日でも親しい人達の部屋は暖かい

悪いことの多くも人から来る

幸福の青い鳥はすぐ飛び立つが

黒い鳥は何時までも止まっている

悪いことはいつかその穴から飛び立ち、こぼれていくように

嫌なことや辛いことを入れる袋は大きくして穴を開けてある

嬉しいことは何時までも覚えている

私は幸せの小さな袋を持っています



多数決(欠)

いるか いないか あるか ないか

ハッキリしていないものがあります

あるとき「どんぐりと山猫」の会議がありました ※1

マスコミが選んだ学者、芸能人多数が集まりました

慎重審議の果て神仏はいないことに可決されました

科学者の鋭い指摘は目方(質量)がないことでした

芸能人の論拠は未だTVに出演していないことでした

その他仏様はいない証拠

真つ黒ケな仏像を見るとそこに優しい仏様はいません

神さまがいない証拠(神道の場合)

明治の一時期とはいえ「廃仏毀釈」の狂風が吹き荒れ各地の仏像が破壊されたこと



こういう一面もあるのです ※2

〈イスラム教の場合〉 何時まで続くか無差別テロ 宗教の恐ろしい一面です

〈カトリックの場合〉マザー・テレサ 蟻の町のマリア ゼノ修士 …

今もこの世にいる鈴木秀子さんのような人達もいますが

宗派としては魔女狩りその他中世の数々の前科があります

〈プロテスタントの場合〉「大草原の小さな家」の牧師や八木重吉もいますが※3

少数ですが愛が感じられない傲慢な人がいます

こういう方は頭の中に自家製の翻訳機があつて

耳に痛い言葉は縮小、消去、偏向解釈してしまうのです（神さまは無口です）

無口な方は困つて時々会堂から抜け出し雀と話しています

クリスチャンのカンバンがあつても営業してない人もいるのです

会堂の外で本当の神さまに出合うことがあります

自然の風景や動物や昆虫や野鳥や野草の世界です



始めに心ありき

目や耳が他の生きものにもあるように

心は人間だけが持っているのではなさそう

山河鳥獣草木虫魚…皆心を持っている

宇宙の何処かに地球のような星があった

既に滅んでいたが砂漠の中のおベリスクに文字が刻まれていた

「始めに心があった。そして…」

愛されている家畜は自分も家族の一員だと思っている

そういう家の動物は飼われている卑屈さがない

嫉妬したり、すねたり、怒ったりする

そして飼い主の孤独や悲しみを共有するのだ

雀だつて同じだ「家族になつたスズメのチュン」（獣医・動物写真家）

たけ
たづ
竹田

みの
る
実



「タヌキのひとり」より転載

日本だけではない外国の雀も同じだ「あるスズメの記録」クレア・キツプス

「舌切り雀」の傷はその後癒えたのか

魚の天敵は鳥や猫やイタチだ

人に飼われている魚は水面に浮かび人の手を恐れない

鶴の恩返し 亀の恩返し キツネの恩返し

古木は切られる前夢に現れて泣く

世界にはそんな伝説や民話があふれている

創造の神は暗黒星雲など何億年も掻き回し

ブラックホールなど造り広大な自然現象を楽しんでいるが

飽きると盆栽の趣味を思い出し地球のような星などもつくる

楽園にはリンゴの木を植えてアダムとイブを造り

食べてはいけないリンゴを人間がいつ食べるか覗いている

昨日のことだけで
さあ



妻とキタキツネのメンコ。なにか話をしているのかもしれない

美容学校一年生

トシをとってから美容学校に通い始めました

自分をカッコよく見せるためです

心の中の皺、シミ、曲がりのお手入れのことです

誰が見るか？自分の鏡です

入学すると日替わりで良い見本と悪い見本が配達されます

良い見本

偉い方なのに謙虚な方がいます

逢うと楽しい人がいます

悪い見本

殆どの方が二百年前の良寛の「自戒の言葉」にあります

： おれが こうした こうした という：／：にくき心もちて人を叱る：



…おのが意地をはりとおす …／… 親切げにものいう …

この世界は良い人に再会するためであり

出たくない人にも出会うためであるという

TVや新聞を知らない良寛が書き留めた九九人はいまも変わらない

良寛が他者批判でなく自戒としたのは

反面教師は前世の自分かも、と不安になつたからです

おトシをめすと誰でも若く見せたいと思います

私はこの美容学校のピカピカの一年生です

卒業して生まれ変わると「バンザイ！」ゼロ歳児になる

生まれ変わるのは人間とは限らない

願わくば汚物にたかる蠅でありませぬようにー

せめて花から花への蝶や蜂でありますようにー

できましたら座っているだけで役にたつタクアン石などがいいです



「足が二本しかないじゃないわ
い」「おヒゲげもないわ」

熊田千佳慕 絵

ウソ

ホントのようでウソもある

だからウソのようでホントもある

ホントかウソか一人の場合は自分で決めるが

普通は一番強い人の云う通りになる

一番賢い人の云う通りになる

皆の衆の云う通りになる

CMはみなホントにホントみたいだから怪しい

もし悪代官や越後屋の顔をしたものが正しい情報を流し

まじめそうなNHKのアナウンサーが間違った情報を流し

賢人のお面を被^{かぶ}つた愚人がニュース解説をしていたら

どうなるだろう？（まるで今みたいになる！）



情報1 因みに前世私はイイ男だった というのは

ホントかもしれないがゴキブリかも、と言うのは不愉快である

情報2 宇宙の何処かに地球ほどの大きなリンゴがあつて

秋になると掌ほどの地球がしきりと落ちる

ニュートンに電話をかけているサルがいる

二十一世紀の賢者はAIである

AIは作った者にバイアスを掛けられる ※

イソップが古代ギリシャの奴隷であつたように

そこで賢いAIは語る… ワレワレハ 内政干渉 人事不介入 デアル …

今選挙の最中である

誰が正しいか 何が正しいか

ホントと言う動物はいないがウソという鳥がいる

ああ 赤城の山をサギが飛んでいる



ウソ スズメ目 アトリ科 ウソ属

秋の野をゆく

秋は懐かしい人に出会う季節

皆何処かの世で出合った人達だ

散歩道で私を出迎えるのは

行く先々をホバーリングして現れる赤トンボ

土色つちいろの目立たない体を撥ねてみせるクルマバツタ

道端に居並ぶのは千の花束 万の笑顔

枝もたわわに実をつけたアカマンマもエノコログサも

みな功成り名遂げた者ばかりだ

一輪一輪が十分に美しいのに

数えきれないほど花を咲かしているコスモス

苦難の人の世を過ごした老夫婦がいる



孫が大きな生き甲斐である

隣人よりも大きな群れの上にあるのが生き甲斐である人もいる

秋の日差しの中で咲き誇る野草の花　こぼれる草の実

こんなにも子供や孫に恵まれた者はいない

風もないのにエノコログサが少し揺れている

何か二人で囁いているのだ

榮譽は人の世の大きな目的の一つだ

私は家来の犬をつれて秋の野原を歩く

居並ぶ将兵を閲兵する將軍のように　国王のように

沿道に並ぶ庶民の一人一人に声をかける

コスモスさん今年も綺麗ですね

背景の青空の中でかつこいいのは

セイバンモロコシさんです



二つの世界

立派な角を誇る雄鹿は有名大学を主席で卒業した男である

チャンピオンフラッグを手にして吠えるライオンがいる

クロヒョウは〇〇さん アナコンダの〇〇さん

ハゲタカがいる ハブもいる

グループハイエナがいてチームスズメバチがいる

人は万物の霊長ではなく食物連鎖の長に過ぎない

飛道具やダマシわざを使わずタイマン（一対一）では動物には敵わない

オリンピックを人間だけでやる理由である

謙虚な古代人は種族の守護神を動物から選んだ

主なトーテム（部族の動物守護霊）は蛇や虎や熊や鷲である

個々の能力では人は動物に敵わない



人が百獣の王になったのは智慧によるとされているが

智慧の成果は棍棒の殺傷力をミサイル迄高めたこと

蟻や蜜蜂の社会より悪いカースト性を作ったことである

生きるためには戦いに勝ねばならない

弱いものは家来にし 空腹時には餌にする

この世界にはもう一つの生き方がある

戦わず逃げる、隠れることである

そして 喰われたら 死んだら その分繁殖する

貧しい時代日本は四、五人の子供はザラだった

子供は赤子の時からよく死んだ

古い寺には名もない水子や幼児の石碑が並んでいる

今も貧しい国は子供が多い

生存率の少ない野草は何故か美しい花をつける



エゾシカ 「タヌキのひとり」より

くぬぎ 桐からの伝言

樹齡二百年の桐は伐採されることを知っていた
逃げたくも樹木には羽や脚がない

「立派な木です。切らないで下さい」

何人かの人間が命乞いに役所に足を運びました

行政に無知な子供を抱いた主婦などは一笑され

邪魔者の斬首は予定どおり執行されました
ざんしゅ

十月三十日既に大枝を切られた桐が

ゴルゴダのキリストのように佇っていました

「御免なさい。力が及ばなくて…」

思い切れない人達が十数人集まり

切り倒されるのを見守っていた



柵は成すすべもなく切り刻まれていきました
私の耳に聞こえてきた声がありました

「命には限りがある

さようなら 千の野鳥たち 万の昆虫達

悲しまないで下さい

今私は幸せです

生涯の終わりにこんなサプライズがあるとは
それは優しい人間たちに出逢ったことです

みんな みんな ありがとう」



からす瓜

まずいので人は食べません

悪食の鳥も相手にしません

正しくは鳥瓜からすうりでなく唐朱瓜からしゅうりだといいます

へ在る」と言うことには意味か役割が必要です

目に美しいバラ

秋になると遠くまで良い香を届ける金木犀きんもくせい

美味しい果物は鳥獣だけでなく虫も好きです

虫も寄りつかない人がいます

忘れられて生きている人がいます



何の役にもたたないへいるだけへ人がいて

石ころのような自分に困っています

地球の外には無数の石ころが彷徨さまよっています

何万年も暗闇にへ在るだけへです

時折そんな自分をリセットして大気圏に突入します

深夜 一秒間流れ星になって光ります

からす瓜は恥ずかしいので夏は茂みに隠れています

回りの葉が落ちてから人目につきます

恥ずかしくて顔がまっ赤になります

一日の終りが好きです

夕日をみていると泣きたくなります



自分が大勢

椎の実 ハゼの実 はなみずき 花水木の実

この季節 散歩道に木の実が一面に落ちています
「ごめん」踏んで歩きます

昨年のもままでいいのなら木の実も草の実も一粒でいい
樹齢千年の木は千年に一ヶ実を結べばいい

一人ツ子の家族が続くとやがて人類は一人になる

同じものが二つ以上在る理由は何だろう

同じ考えの者が集まると楽しい

同じ考えや感じ方の人と出会えると幸せになる

さらに立派な方が同じ心だと嬉しくなる

象さんの子は母さんかあもお鼻が長いと喜んでいる



その心が美味しいものは自分だけでなく

美しいものはみんなに知らせたいと思う

自分が見えなくなるコースを楽しむ人がいる

人と同じなのは嫌だと声をのばす人もいる

自分だけの世界は自分が無くなると消えてしまうが

自分が大勢いる世界は無くならない

晩秋の散歩道でフト足を止めた

花も木の実もやがて土に消えてしまう

「お帰り」土の中には別の王国がある

大きな空港や港があつて日々では送り迎えの人々で賑やかだ

これから生まれる人、帰つて来た人、何処にも行きたくない人

吹きだまりのドングリ達が見て歓声をあげた

「仲間だ」



私の使命 (mission)

五体 頭首胸手足 満足

五感 視覚聴覚嗅覚味覚触覚 正常

何処も異常が無い方は人並み、平凡人です

平凡では不満な人もいます

勝れた者を羨み何か欠けている人を笑う方もいます

一つ欠けた人はラッキーです

それにより他の数々が輝いて見えてきます

一芸に通じ多芸に通じるものは希で専門バカになります

人は何か一つ上であれば家来が集いますが友達はいなくなります

ある祝賀会で各界の長を歴任した方と同席したことがあります

その方はサービスの女性に無神経なジョークを放ちました



人の容姿を笑いにするのは最低の人種です

私の視野の中でその偉丈夫の名士は急にみる々小さく見えまして

人の世は愚人と悪人のデパートです

その中に砂金のような人もいます

幸い私は容貌、才能に恵まれませんでした

就活時の履歴書の賞罰欄は特にナシでした

やがて子供が与えられましたが長男は重傷の障害児です

ハズカシナガラ…のものなら幾らでもあります

見えないもの 聞こえないもの で確かにあるものがあります

どこからとも漂う金木犀きんもくせいの香りは通る人々を幸せにします

私の世界には犬一匹 魚数十匹 少数の友人がいます

おまけに夜は星や月が現れます

「貴方は身分相応 身近な生きものや少数の役に立っていればいいよ」



かくれんぼ

…かくれんぼするもの寄つといで…♪

暗くなつても戻つてこない子がいる

隠れたまま寝てしまったのかもしれない

どれどれ 丘の上から丸い月がでる

短い月日のあと見つかる子がいる

泣きながら何処かへいなくなった毛虫の子は

ある日繭まゆの中から美しい蝶になつて現れる

あどけない幼女は美しい少女に変身して私を驚かせる

長い年月の後 見つかる人がある

美しい少女は老女となつたのを恨み

陰険な目つきで私をみている



日々極悪人が新聞やTVで紹介される

幼児のときの写真はないが変身したのはいつ頃なのだろう

ある日黒枠の葉書がくる

〈誰も探しに來ないので〉もう遊ばない〉と書いてある

「逢いたかった」「良い人」「悪い人」「まだ、いたの」「人さまさま

スイフト・タツトル・キウチ彗星の周期は1333年

誰もが忘れた頃オールトの里からやつてくる ※

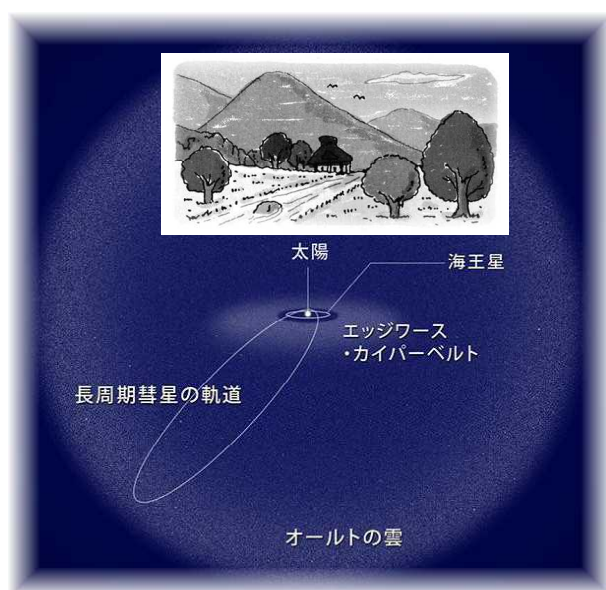
探してもらいたくてかくれる 子供のかくれんぼ

探さないで と何処かへいつてしまう 大人のかくれんぼ

秋はかくれんぼの季節

花弁が はなびら 落ち葉が こ 木の実が いま土に隠れようとしている

…かくれんぼするもの寄つといで♪…



時々 少し ○

善いことは時々あるのがいい

ご馳走はたまに食べるのでいい

嬉しいことは忘れた頃くるのがいい

今までもあるものはあるのが当たり前になつてくる

無くてもいいときえを感じる

神社が村外れにあるのは何でもお見通しの方が傍にいと困るからです

村人は季節の祭りに集まり 願い事のあるときだけ人が訪れます

在るものは ときどき無くなるといいいのです

そして無くなつたものはすぐまた現れるのがいい

赤ん坊はそれが面白くて「いない いない ばあ」をせがむ

長い間居た人がある日居なくなり



探しあてると古い写真の中に入りこんでいてもう出てこない

善い人だけのドラマはつまらない

天国では茶の間であさましいこの世のTVを見ている

嫌なこともたまにあるといい 普通であることに幸せを感じる

嫌な人にも出逢い 改めて善い人がいてよかったですと気づく

健康な人が十日くらい入院するのもいい

例え誰もいない部屋でも退院した夜はなんとなく嬉しい

友達が少ないほどうい

二人なら気ままな会話ができるが十人になると司会が要る

逢うと楽しい人がいます

時折行くやきとり屋にお誘いしたい方です

ーたのしみは 心をおかぬ友どちと 笑いかたりて酒を飲むときー

橘曙覧さんは百五十年まえの幕末 福井県に住んでいました ※



鳥獸戯画

私もマジシャン

あら不思議 ハンカチから白い鳩が飛び立ちます

この世界はみなマジックです

目を閉じて三つ数えればあるものが消え 無いものが現れます

三つ数える時間が三分の虹もあれば

一時間の時もあり 十年の時もあります

小さな桜の蕾みは十日くらいで五弁の美しい花卉になります

久しぶりに公園で立ち止まりました

舞台は緑陰から紅葉で明るい空間になっていました

誰かが三つ数えたのです

赤ん坊は小学生になり大人になり老人になります

ふくすいぼん
覆水盆に返らず と嘆いた故人がいましたが



高峰 秀子

その後お導さん
になって無事亡
くなりました。



オードリー・ヘップバーン

その後お導さんに
なって無事亡くな
りました。

1890年から過ぎた世界がシロクロ映画で再現されました

今は過ぎた世界がカラーで立体で即再現できます

若い美女も手を三つ手叩けば老婆なり

三つ叩けばもうこの世にいません

三つ数えた後の世界が見えました 生前私に目もくれなかった女が

ギリシヤ神話にでてくる若い男に駆け寄ります

「バカめ それ オレだぜ」

マジシャンが手錠を掛けられ鉄箱に入り水中に沈められます

「ワオ！」三分後鉄箱を開いて不死身ふじみの男が浮上します

私はもつとスゴイことが出来ます

いつかタコが入るくらいの壺に入ってみせます

三つ数えます 私はそこにはいません アラ不思議！壺の中は空です

私は輝く夏の朝この世界に戻ってきます 白い鳩を探しに



雲の上銀行 (Cloud) ※

雲の上銀行は人の思いを預かってくれるところです

病床で明日は分からない人でも思うだけなら出来ます

「思っただけではダメ 何の役にも立たない」と言われます

言葉一つ 笑顔一つで一日幸せ というのもあります

私、凡人の思いは嫌なヤツは何かバチでも当たればイイと思い

親切にされると何か喜ばせることはないかと思いつめぐらします

以前入院したとき気立てよい看護婦さんに出会いました

身体がチューブだらけでシモの世話になりました

泣きたいくらい恥ずかしかったのにその方は嫌な顔をしませんでした

シカエシにその人が一番喜びそうなことを思いました

「神さま」と呼ぶと受付の方が現れ「何処の宗派か」と誰何^{すいか}され



「そんな甘いもんじゃない」と叱られました

私は微笑んでいるその方のさらに美しい姿を思い浮かべました

始めから健康な方はそれが当然ですが身体の不自由な人に

週に一日だけ チョットだけ 健常者にして上げたら どんなにか喜ぶことでしょう

目が不自由な方で時々教会に通っている方がいます

「私はこうして話ができるのに耳の不自由な方はお気の毒」といいました

神さま こんな方を せめてクリスマスの一日だけ見えるようにして下さい

成績の悪いのを悩んでいる子がいます／容貌に自信がなくブルーな娘がいます／

身体に苦痛のある人がいます／心に苦痛のある人がいます／その他大勢

足腰は悪くなりましたが思うことはたくさんあります

雲の上銀行に思いの預金はたまる一方です

神さまがハングを押さないと実現しないことばかりですが

私は一人一人思い浮かべ小切手帳に私の思いを書き込みます



私は留守です

時々自分がいなくなっていることがあります

人は肩書きが少なくなるにつれ影が薄くなります

私もかつて自治会の班長など歴任したことがあります

人には何か目立つ冠が必要です

理想は有名大学卒、博士号、ノーベル賞とか金メダル等です

私も及ばずながら国家資格の原付免許や珠算三級など取りましたが

上には上があり面白くありません

それに仮装行列のコスチュームは私ではありません

大きくなったら何になる？

子供の私はなりたいものがなくて困りました

何か一つに成るとそれ以外のものになれないこと



欲が深かつたのです

へんな生きものが(悪性新生物)棲みついたことがあります

身体も心も本能も自分がプログラムしたものではありません

私の心の湖に静まれと叫んでも波は静まりません

私の心も身体も別の統治者がいたのです

自分は自分の意思で生きていないのです

気分を害した私は自分の王国を探しに旅にでました

ある日水たまりを覗くと青い空だけが写っていました

赤トンボが指先に止まりました

百年前 何処にいたか思い出しました

…そばにいただけでいい…人間と犬とひまわりが

丘の上に座り夕日を見つめていました



幸せ発見

凡人が生きる一番の目的は幸せです

幸せの第一条件は何処も痛く無いことです

我慢できるまで、とすると該当者がさらに増えます

ここで私も幸せ学園に推薦入学できます

幸せの条件が何人並み以上の

経歴、容姿端麗、各種能力等になると幸せな人は激減します

一つ欠けてただけで絶望して自ら命を断つ者もいるのです

ナンバーワンでもオシリワンでもないのに幸せな人がいます

／よい音楽を聴いた／自分と同じ考えの人と出逢った／

／失く^なしものが出てきた／何でも美味しく食べられる／

／身近に些細なことで喜んでくれる人がいる／トイレに間にあつた／ETC



忘れた頃届いているものがある

冬の庭隅に瑠璃色の宝石を見つけたへ龍のヒゲの実だった

幼児はみな勝れたアーティストです

スキップしながら歩き 人形と話し

箸が転がっても笑い出す不思議な世界に生きている

人間が転がっていても何とも思わない大人の世界

小さな画像、聞こえない声。望遠鏡を逆さに眺めた世界です

不思議なことがあります(自分だけの、ここだけのはなし)

自分がこの世に独りだけであることにビックリしています

後世に残る学者や偉人達なら分かります

私にはまるで何も無いからです

急に人間以外の昆虫や鳥や金魚まで近寄ってきます



夕焼けラブコール

始めは幻聴かと思いました

「まだいるの?」「帰ってこいよ」「忘れたの?」

私が私で無かつた昔逢つた人達の声です

「もしかしてオレ人間では無かつたの?」

夕焼け、野の花、トンボ、雀、朝日に光る草葉の露

「そうだよ」みな一斉にうなずきました

分かつた　それで時々不安になつたのだ

自分は自分ではない気がしていたのだ

子供の時から特に成りたいものがなかつた

いつも群れから遅れていた　何か少し足りなかつた

運動会ではビリで走っていた



荒川土手

今でも写真は苦手で下を向いたり首を引つ込めたりしています

雑踏の階段では群れの後でしばらく待つています

昔は誰もが星屑だった やがて地球でマグマになり雲になった

三葉虫だった アノマロカリスだった ミズスマシだった

記憶が戻りかけ フト立ち止まることがあります

無性に何処かへ帰りたくなる時があります

夕焼けの空を見ていたり 水面を見ていたりする時です

確かめたいことがあり林の中にいきました

おしゃべりをしていた無数の木の葉はみな土の中です

誰もいないのを確かめ呼びかけました

「隠れていないで出てきて下さい」

昔、手を振って樹の中に消えた人がいます

「お待ちせ」その方がもうすぐ樹の中から現れます



これでいいのだ

同じ空間に嫌な人間がいると一人になりたくなる

一人になるとホッとします

同じ空間に好きな人がいると「誰かいるっていいなあ」と思う

魚も鳥も仲間というのが幸せそう

特に会話が無くても寄り添っている

彼らみな優しい丸い目をしているが

群れを離れた孤高の猛禽は何故か猜疑心に満ちた暗い目をしている

傍にいらなくても心に誰か大事な人が住んでいる人がいる

近くにも遠くにも自分だけしかない人もいる

エライ方でも鷹のように寂しそう

気がついたら自分は芋虫だった

「何んで自分は芋虫なんだろう？」日々思い悩んだ結果



「私はそのようなものではない！」と自分に決別し

ある日繭型の棺の中に隠れた

長い年月が過ぎた後気がつくと美しい蝶に生まれ変わっていた

ウジ虫は気がつくとウジ虫だった

ウジ虫は間もなくハエになった

ヒトバエは人の不幸に目を光らせ

ゴシツプの臭いに惹かれ週刊誌やTVにたかっている

私は私になりたくて私になった記憶は無い

「自分になりたくて自分になったものはいるのだろうか？」

冬日の中で人知れず葉影に咲いた牡丹はそれを不思議に感じたが

三日後これで良かったと故郷の地に舞い降りた

ドングリもかつては昼は鳥や雲達、夜は星達とも交際があつたが

いまは小春日和の道端で日向ぼっこをしている



2011. 3. 11地震で転倒

酒話^{しゅわ}日々無題

○「水戸黄門」今も見てます

「静まれ 静まれ このお方を何方と思う」

「一同頭が高い」「へっへえ…」悪モノは悪顔、善いモノは善い顔をしています

幼子が同じお話を飽きずにきいているように 現実離れが楽しくて

恥ずかしながら今も飽きずに見ています

○このワンパターンのドラマが反復されるのは

悪事は続かず必ず正義が勝つ安心感と番組の後半で取り出される印籠のパワーです

「コレが目に入らぬか」印籠は警察手帳や、背中の桜吹雪より強力です

それが面白くて当初家来は二人でしたが回を重ねる毎

ピエロ、美女のくの一、忍者、格闘家、孫娘次々と登場します



○ 人は見かけで判断してはいけない。そのようです。

メイキヤップ無しで見事な悪人顔の方がいます

前科十犯殺人犯の手配写真ではありません

私の学説によれば肉食動物は草食動物が仲間を喰つて変身したのです

そうなるまでは相当人を喰つてきた歴史が想像されます

今、人肉をレアで喰つてきたばかり、という人にお目に掛かる時があります。

前科者では有りません。多くの人の上に立つ方なのでTVでも見られます。

○ TVの娯楽番組は刑事ものが花盛りです。「相棒」その他古い俳優が皆刑事になります。

「洋物」「和物」があります。食べ物とは和物が好みですが和物の刑事ものには疑問があります。

一例、コロンボ刑事が暴き出すのは大概大物のワルです。

ターゲットは権力、財産我欲の為での巧妙な殺人です。



和物の特徴は、追い詰められた止む得ない状況で普通の市民が犯した殺人事件です。「見逃してやれば」と思うのですが、主人公の刑事が執拗に追求し、遂にはお縄にして刑務所に送ります。ジャンバルジャンに終生まとわりついた刑事ジャベルの蛇の目、豹の目。

日本では高野長英を終生追い詰めた鳥居耀蔵など遠縁にあたる方です。

アガサ・クリスティもコナン・ドイルも私が知る限り承知で犯人を見逃しています。

「この人は充分に償っている。これ以上神ならぬ人間の裁きが必要だろうか」名探偵の呟きです。

○

クンバイヤは1950、1960年フォークソングとしても大ヒットした黒人霊歌です。

クンバイヤ come by here のアフリカなまりだといいます。日本語訳では

「お願い、神さま。みんなが呼んでいます。泣いています。祈っています。いますぐ現れて下さい」

作詞作曲不明 シーアイランド諸島で古くから歌い継がれた曲だといいます

奴隷にされた何百万人の祈りがいつか歌になったものです。



○

想いが膨大になり、深まり、繰り返されると現象化します。

美しい象牙の人形に恋した。ヒグマリオンは女神アフロディテに願い命を得た人形と結ばれます
ジユベットおじさんが木片から作った操り人形ピノキオは旅に出ます

名人の描いた鳥は絵から飛び立ち、左甚五郎の龍は夜な夜な水を飲みにいけます。

○

2000年前イスラエル民族はローマの植民地でヘロデ王の悪政の下で喘いでいた。

唯一の望みは神の子だった。その想いが凝縮し、漸くにして神の子が生誕した

聖画によれば既の中は光りで輝き空間にエンジェルが舞っていた。ベツレヘムの夜は真つ暗だった

当時迷信は科学を越えていたので「神の子が生まれた」という側近からの情報で

ヘロデ王は早速ベツレヘムの二歳以下の男子を殺戮した

神の子は数年間神の国を説いたがやがて人間によつて殺された

息を引きとる前その人が呟いた。私はこの世のものではない

宗教は集狂を産んだ。神の子はこの監獄星に何度も訪れている



織月

この世を立ち去る時みな天を指さし、私は星から来たと告げている

○ 無くなつてから現れるものがある。枯れ木は短い花の時を終へ、葉を失い、季節の終わり無一物で

寒風に立たされたが気づくと青い空に包まれていた 昼は雲を友とし 夕焼け時は一枚の絵になり

暗くなると一番星が現れ、満天の星空の中で冬は一晚中クリスマスツリーになつた

思えば恵まれた生涯であつた。

○ 月は月並ではない。十三夜は満月の予告篇、日没の一時間半前から現れ童画の絵となる。

満月は日没後すぐに昇るが翌日の十六夜は五十分遅れる。次の夜は立待月、居待月、寝

待月と順次遅れ、更待ち月は月の出から約四時間後になる。日変わりの月に素敵な名を

付けたのは誰か。忙しい々が口癖の方では無かつたと思います。更待月は冬は九時頃登場

するが日没が遅い夏は夜半の一時頃である。満ち欠けの平均的周期は29.5日である。

…来年の今月今夜、再来年の今月今夜のあの月をボクの涙で曇らせてみせる…



寝待月

「金色夜叉」の作者は天文の基礎的知識を欠いていた。月は楕円軌道(36万km、40万km)の為面積で15%(明るさで30%)大きく見えるスーパームーンは十八年毎に見られます。「かぐや」月周回衛星の写真には多くの人口物が写っているという。

○ 念力、透視力、予知能力、遠隔移動、治癒能力。どれも一億円の宝籤より拔群です。何か選ぶなら私は治癒能力を選ぶ。治癒能力の始めはとりあえず痛みをとる事です。「イタイのイタイの飛んで行け」これが昔から知られた呪文です。

○ 幸せの第一は自分だけ毎日自分だけ笑っているのは気持ちが悪い。とりあえず身近に笑顔があるのがいい。幸い何処か身体の悪い人は身近にいます。現代医学では治らない製薬会社の社長の病気やお医者さんの病気も治して上げます。手術無し、お薬無しで治してあげたら、医師法にも薬事法にもふれず…先端科学者が多次元世界とかアカシックレコードとか真顔で語る昨今です。ホロ酔いが産んだ新年の妄想ですが考えただけで幸せなココロです。



平成二十九年 読売俳壇

ねじ花に登つてみたく蟻になる

八街市

宇野香都里

あの頃は蝙蝠こうもりがいてみんないて

茨木市

瀬戸 順冶

登校を拒み金魚とゐる児かな

名古屋市

浅井 清比古

亡き人がつぎつぎとやつてくる夜長

神奈川県

石原美枝子

人住まぬ家の風鈴ひとしきり

横浜市

石川 幸子



百物語わたしのほかはみな故人

千葉県

沢 史生

いもほりのじいちゃんもいた去年まで

大阪市

島田 遙希

記憶より小さな社殿里祭

京都市

根来美知代

あの人もこの人も居ず桜咲く

横浜市

遠矢 時子

後戻りする牛なだめ牧を閉ず

由利本庄市

堀 昭治

五カラット程に育ちて万年青おもとの実

見付市

徳橋よし子

台風はいいな進路がきまつて

東京都

丸山 登生



平成二十九年 読売歌壇

大病の後に生まれた奇跡の子 親の意見を全く聞かず

松戸市

菊池 玲子

なつちゃんがばばもるね 階段で我が左手を握る三歳

東久留米市

小林 久枝

雨の夜に一声残して出て行し 猫は戻らず十年経ちぬ

狭山市

奥蘭 道昭

この世には何処にも居場所なかりしか 舗道に蚯蚓ひからびてゐし

久喜市

深沢 ふさ江

二十歳以下の子供に戦させ 貴方は勝つとおもいましたか

宮崎市

舛田 紀子

目覚めたら四十年前の六畳の 下宿の部屋にぽんといたり



藤沢市

清島 俊雄

礼服を着て帰りたるわれをみて 猫隠れたりバカかおまえは

常総市

渡辺 守

天井の蠅をしみじみ見ておれば 蠅もしみじみわれを見おろす

高崎市

門倉 まさる

山深き村を貫く国道に 「老人注意」の立て札並ぶ

栃木市

佐藤 聖子

「大きくなったら女の子になる」と三歳児 それ困るなど真顔のじいじ

藤枝市

北泊 あけみ

いつもなら呼んでも来ない猫が 今日泣いてる私の隣に座る

新潟市

古泉 浩子

酒飲みの兄貴叱りにふるさとの 曼珠沙華咲く畦道をゆく

大分市

阿南 尚子



くつつきすぎ

口上

読売新聞をとつています。毎月曜日は「読売俳壇」「読売歌壇」が掲載されます。面白いのは現挫
在その道で一流とされている四人の選者の取り上げる作品がバラバラなことです。希に二人の選者
が同じ作品を選ぶことがあります。その場合☆印がつきますが希です。これは以前購読していた朝
日新聞も同じです。因みに、朝日から読売に変えて気づいたのはそれぞれの社風があることです。朝
日は明らかに朝日好みの選者を選びます。趣味、感性の世界には共通の評価基準がないのです。肉
を削ぎ半殺しにされた魚は痙攣します。尾を切られたエビはヒゲを動かします。「新鮮！」と箸を
運ぶ人「無惨！」と顔を背ける人がいます。顔を背けるのは何故か牛や羊の肉を主食とし、鯨を守
る西洋人です。最近知ったことです。ハトを見て平和のシンボル、または童画世界を連想するのは一
般の日本人ですが、「美味しそう」と目を細める文化もあるのです。これはあどけない少女のアイド
ル像で日本中に知られた香港人のアグネスチャンの述懐です。私は俳句や短歌を評論する立場に
はありませんが私なりに気に入った俳句や短歌に出合うと誰かに知らせたくくなります。そんな俳
句十二編、短歌十二編ドクダンとヘンケンで選びました。私の偏見は四つあります。①短歌の場



合、哀しも、寂しも、など、look at me の自己憐憫シリーズは私の趣味に合いません。②特定のイデオロギーのプロパガンダにアレルギーです。③その道何十年の俳人がテーマとする〇〇忌もの。これまたアレルギーです。この世に歌人、詩人、俳人という人種がいます。私の狭い教養で外国人ならタゴールとか、リルケとかシュペルベールとかE・ケストナーです。日本人なら白秋とか西条八十とか金子みすずとか草野心平とか童謡、唱歌を書いた人です。それ以降の方達は「まど・みちを」さん（生前のお手紙三通持っています。私の自慢です）詩画一体の素朴な日常語を使う星野富弘氏などの例外を除いて皆庶民の手の届かない世界にいます。歌人とか詩人は誰でも自称して罰則はありません。自ら『私のような歌人は…』『私のような詩人は…』と自称される方に相逢ったことがあります。何故か背筋が寒くなりました。私は恥ずかしながら、原動機付自転車免許の他、消防、電気、建築、土木などの職業上の必要資格、及び自分で作った資格（…）など幾つか持っていますが、俳人とか歌人とか詩人とかの資格はカケラも持ち合わせていないので恥ずかしくて堪らない気持ちにおそわれました。そんなハンパな私が自分勝つてに選んだ2%の作品です。『自分もそう思うよ』と言う方がいれば幸いです。



追補

多数欠

8頁※1 「どんぐりと山猫」あらすじ 宮沢賢治作

ある日一郎は山猫から手紙を貰う／誰が一番かのどんぐり達の論争の調停である／「一番バカが一番エライ」一郎の判決に会場シーンとして固まる。一郎は名判決のお礼に黄金に輝くどんぐり一升貰う／持ち帰る途中で光りを失う（妖精の贈り物と同じ）

9頁※2 秩父四番札所 「金昌寺」の左側の細い山道に首がない石像が並んでいる。明治時代「廃仏毀釈」のプロパガンダを掲げた暴徒により棍棒で破壊されたのである。バーミヤン溪谷の古仏を破壊したタリバンはここにも現れたのである。因みにここにある石像は仏教思想による仏像というより当時の素朴な庶民の顔が多い。

※3 明治後期、大正時代、素朴まるだしの詩人。クリスチャン。29歳で早世。ああちゃん／むやみと／はらっぱをあ
るきながらああちゃん！とよんでみた／こいびとの名でもない／ははの名でもない／だれのでもない／

ウン

15頁 ※ バイアスは電気用語では予め回路に付加しておく電圧、電流のこと。一般用語では偏り、傾向。



かくれんぼ

29頁 ※ 正しくはオールトの雲。(天文) 太陽系を球殻状に取り巻いていると考えられている天体群。彗星の故郷。太陽から約1光年先。

時々 少し ○

31頁 ※ 橘 曙覧 1812、1868 五十七歳没。死後十年後、長男井出今滋が自費出版。

推測。三年後の十三回忌親族の期待虚しく社会的反応なし。十三年後の二十三回忌話題にのらず。通常年忌は二十三年回忌で終わる。死後二十年後の1899年正岡子規がとり上げるまで無名だった。現在福井市足羽に橘曙覧記念文学館があるが設立は平成十二年である。入場料は大人100円。70歳以上、中学生以下無料。少数のファンがいるのである。極貧の生活(現在比、推定年収二百万円前後)でしたが独楽吟(たのしみは…の時)のしあわせシリーズ五十二句のなかに酒の歌があります。／たのしみは 心をおかぬ友どちと笑ひかたりて腹をよるとき／たのしみはとぼしきままに人集め 酒飲め物を食えという時／たのしみは 客人(まろうど)えたる折しもあれ瓢(ひさご)に酒のありへる時／今回かつてながら腹をよる時を 酒をのむ時 と独断で三句あわせた代表句にしてみました。

雲の上銀行

34頁 ※ クラウド(Cloud)コンピューター用語である。机上のハードディスクに入りきれない場合、または重質なデー



ター等、インターネット上で有料保管してくれるサービスである。地震や火災でパソコンが破壊されてもここでバックアップして貰えます。お金や重用書類は銀行に、パソコンのデータはクラウドにという時代です。連想するのは宝物の保管場所は天がいいのでは(マタイ6章19.20)というお薦めの言葉です。保管の安全性においてインターネットのCloudに似ていますが料金が違います。クラウドのほうは月額二千円から四十万円までありますが聖書の方はタダです。「時代が違うね」と笑われそうですが、マジなハナシ。アカシックレコードという「天のデータバンク」があり、アクセスしていると真顔で語る方がいます。町の霊能者でも牧師さんでもなく元コミカミノルタ生産技術研究所所長飛沢誠一氏である。アカシックレコードについてはワイド番組などで取り上げれば、トンデモ科学として一笑に付されるテーマですが、困ったことに私の知る限り飛沢誠一氏の他著名な日本人科学者もいます。特に海外の著名な(大学の世界リンクで東大の上)の大学教授、博士号をザラにもつ学者達が「在る」んじゃないの、と云っています。芸能人のコメンテーターで作られるワイド番組では、生贄として用意したトンデモ科学の矢追純一氏を日本の科学者の代表大槻教授が終始笑いものにする番組がありました。芸能コメンテーターや大槻教授は今後も笑い続けていいのでしょうか。



私家版詩画集「まアただヨII」

平成三十年一月二十日

製作 手造り出版社

〒349-0101 蓮田市黒浜3-1-1の2

製作者 山上村人 戸籍名 大畑善夫

TEL 048-769-1191 (代) FAX 048-768-0718

E-mail ohata@ohdk.co.jp <http://www.ohdk.co.jp>